

施策番号 2-1-1	施策名 担い手育成と農業支援	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり			
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	佐々木快治	内線	410
	施策関係課	総務課・農業委員会				

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
農業関連制度に的確に対応した足腰の強い農業経営の構築を支援し、基幹産業である農業を核とした活力あるまちづくりをすすめます。		農業経営体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲ある農業経営体の育成と経営の安定、拡大が図られる</li> <li>・担い手への農地集積が図られる</li> </ul>				専業経営を中心とした、土地利用型農業の推進
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 全体の農業経営者数に占める65歳以下の農業経営者数の割合	農業経営実態調査	%	92.0	90.0	89.6	93.0	
② 1戸あたりの農業生産額	農業生産額(農業再生協議会)	千円	35,368	52,397	49,471	43,200	
③ 担い手への農地集積面積	農業委員会調査	ha	—	4,798	5,471	3,000	
成果指標設定の考え方	①担い手育成及び持続的な農業経営を行う意味では、農業経営者が比較的若い年齢であることが望ましいことから、65歳を基準として、全体に占める割合の指標として設定した。②農業産出額を農家戸数で除した数値であり、農業産出額と同様の指標とも捉えられるが、農家戸数の減少や経営規模の大型化などの状況を把握する観点で設定した。③国の農業政策の方針の中でも、農業経営の基盤となる農地をできるだけ担い手に集積することを目的としていることから、農業委員会による調査数値を指標化することとした。						

## 2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	228,926	2,343,829
人工数(業務量)	5.0821	6.9314

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	農業振興センターを中心とした営農指導の継続により、各農業者の技術向上は図られていると認識しているが、新規就農や労働力確保などの担い手対策については、十分に効果を発揮できていない。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	①については農業に関わらず、産業全体として人口減や高齢化の影響を大きく受け、数値は下落しているが、成果指標全体としては、概ね目標を達成していると考えられる。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業担い手育成支援事業 地域農業振興事業 農業振興センター運営事業 てん菜作付奨励事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業担い手育成支援事業において、自主的活動支援事業補助金が各グループで活用されてはいるが、今後も様々な分野での研修・研究・事業実施が更に図られるよう、事業内容の説明や啓発を継続的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・労働力不足による新農業経営者育成システムへの希望者減少が続く中、単年実施やカリキュラム変更などの見直しを、平成30年度から実施した。</li> <li>・酪農業における労働力確保対策として、哺育育成施設の整備が急がれている。</li> <li>・てん菜作付奨励事業は、全体の作付面積は微減であるものの、直播面積の拡大が図られ、作付面積減少の抑制につながっている。</li> </ul>		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

	A	B	C	D	E
進捗結果				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>昨年の農業生産額は、6月以降の長雨や日照不足の影響により、一昨年よりは減少したものの史上3番目の額となった。</p> <p>ただ、今後も労働力不足の問題は喫緊の課題であり、後継者対策を含めた担い手の育成や新規就農の推進については、JA等とも連携しながら課題解決に向けた取組が必要であり、住宅確保や地方版ハローワークとの連携など、様々な手法を検討していく必要がある。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

**5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取組むべき課題)**

<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題① 農業担い手対策 新たな担い手や雇用労働力の確保の課題がある。就農希望者の研修体制の構築や住宅の確保、後継者対策としての育成システムの充実や今後実施される予定の「地方版ハローワーク」との連携等、関係機関間で農業者の育成・就農体制を検討する。</li> <li>●課題② 農業支援の強化 「耕地防風林対策」、「てん菜作付奨励」、「農業振興センターによる技術指導」を継続して取組むとともに、酪農部門において、飼養頭数の増加による「労働力不足」、「牛舎等の容量不足」の課題解決に向け、哺育育成施設の整備を2か年(R1~2)で実施していく。</li> <li>●課題③ 家畜ふん尿処理 上記の課題②に合わせて、「芽室町における酪農基盤整備構想」に基づき、酪農部門における家畜ふん尿処理施設の整備・運営手法を検討していく。</li> </ul>
--

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	農業生産額も策定時から大幅に上昇しており、その他の指標もおおむね目標を達成していることから、策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	課題②③の酪農分野における課題は早急に対応すべきである。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	どの指標も高い数値を維持している。策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	労働力確保について、JAとも連携して進めていってもらいたい。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					